

九大病院だより

九大病院だよりは患者さん向けの広報誌です。ご自由にお持ち帰り下さい。

九州初の心臓移植施設に認定 来春にも一例目の手術実現

九州大学医学部附属病院が東北大学医学部附属病院とともに心臓移植の実施施設として移植関連学会合同委員会（世話人・森亘 日本医学会会長）から認定されました。これで心臓移植の実施施設は全国で7施設になり、本院は九州で唯一心臓移植ができる拠点施設となったわけで、移植を待つ心臓病の患者さんやご家族にとって、大きな朗報と言えます。

平成9年に臓器移植法が制定されて、国立循環器病センターなど3施設が心臓移植実施施設として認定され、これまでに17例の移植が行われました。しかし、「施設を増やして欲しい。」という強い要望があって、平成13年に同委員会が全国公募し、施設、移植技術など厳しく審査した結果、昨年10月に東京大学医学部附属病院など2施設が、今年6月に本院などが心臓移植を実施できる施設として認められたものです。



●慎重に心臓手術

本院ではアメリカのピッツバーグ大学で、3年間に心臓移植や肺移植など合わせて200例を超える移植手術を手掛けた森田茂樹・助教授（心臓血管外科）を中心に、免疫、感染症などの専門医で最強の移植チームを編成、初めての脳死による心臓移植手術に挑戦します。すでに日本循環器学会承認の待機リスト患者さんがいて、心臓の提供を待っている状態で、待機順番などの関係で、早ければ来春ごろには第一例目の心臓移植手術が実現できるかもしれないということです。

現在、世界では6万人が心臓移植手術を受けて生存されていますが、日本では脳死による心臓の提供が少なく、心臓移植手術数は17例に過ぎません。心臓提供はスペインが人口100万人に対し年間30人、アメリカが同じく20人ですが、日本は0.048人という状態です。このため、心臓移植に対する国民の皆さんの理解と協力がより必要であるとともに、医療関係者の積極的な理解と協力もまた必要とされています。



診療ガイドライン

新聞報道などでご存知の方も多いと思いますが、最近、厚生労働省や学会の主導で、胃潰瘍、胃がん、高血圧、糖尿病など患者数が多い、比較的ポピュラーな疾患を対象として診療指針（ガイドライン）が作成・発表されています。

医師が診断・治療する際に選択に役立つ情報を提供することで、医療の質と患者サービスの向上を図ることを目的としており、科学的根拠に基づいた医療（エビデンス・ベースト・メディスン、EBM）を行う上で大いに役立つものと期待されています。

一方、医療においてインフォームド・コンセントという言葉が広く普及し、その実施は診療に不可欠と考えられています。患者さんから見ると、これは病気についての十分な説明を受けた上で、ご自身が納得・同意して検査や治療を受けるというものです。診療ガイドラインは、このインフォームド・コンセ

いいだ みつお
第二内科教授 飯田 三雄

MESSAGE from Mituo Iida

ントを円滑に行う上でも大変役立つものと思われます。なお、胃がんなどの一部の病気のガイドラインについては、患者さん向けに作られた冊子やパンフレットも出版されていますので、是非ご一読されることをお勧めします。

しかし、ガイドラインはあくまでも標準的な診療方針を示しているに過ぎず、必ずしもすべての患者さんに当てはまるわけではありません。実際の診療では、時にガイドラインとは異なる治療を勧められることがあるかも知れません。そのような場合には、遠慮せずに主治医に十分な説明を求めることが大切です。それでも納得できない場合には、別の医師に意見（セカンド・オピニオン）を聞くのも良い方法と考えます。



当部は昭和44年に理学療法部として誕生し、平成3年にリハビリテーション部に改組され、昨年からは新病院（南棟）1階の1,000㎡を超える広大なスペースに引っ越して診療致しております。スタッフは、岩本幸英部長のもと、医師3名、理学療法士（PT）5名、作業療法士（OT）3名、事務職1名の少数精鋭ですが、毎日100名を超える患者さんにリハビリテーションサービスを提供致しております。診療対象は、整形外科が約半数、神経内科や脳外科領域が2割を占めますが、ICUでの急性期リハから退院前の機能訓練まで、全ての診療科の幅広いニーズにお応えしております。

また、学内での教育や研究にとどまらず、市民講演会や健康教室の開催、スポーツ競技会の支援、地域の福祉事業の支援、インターネットによる情報発信（<http://www.med.kyushu-u.ac.jp/reha/>）など、幅広い啓発活動も展開しております。

院内連携や、地域と大学との掛け橋として、幕末の長崎出島のように柔軟かつ学際的にお役に立てる場として、鋭意努力を重ねてまいります。

今後ますます多くの皆さまのご利用ご用命を、職員一同、心よりお待ちしております。

リハビリテーション部
TEL:092-642-5862



●リハビリ室での運動療法



●最新のリハビリ機器や測定マシン

おしっこで“がん”を診断!?

検査部の濱崎直孝教授にお話を伺いました。

最近の医療における“がん”の診断や治療に対する進歩は素晴らしいものがあります。それは“がん”ができる仕組みやその性質に対する基礎的な研究の成果です。これに加えて、コンピュータの進歩や核磁気共鳴など物理学の進歩で、体を傷つけないで体の外から身体の内側を検査することができるようになったことで、初期の状態の“がん”を見つけることができるようになったからです。それでもまだ、“がん”の早期発見には定期的に病院を訪れ、様々な検査をする必要がありますし、“がん”ができる場所や種類によってはなかなか見つけることが難しく手遅れになる場合もあります。“がん”の検査を尿を用いて簡便にできたら、自宅で瀬廻りに調べることができ、それこそ、初期の状態の“がん”を早期に見つけることができる筈です。この夢のような研究を本院では検査部を中心に行っております。

工学院大学の川喜田正夫教授は10数年前から尿に含まれるポリアミンやその代謝物を調べることで“がん”を診断する研究に取り組んでおられました。その研究の中で、川喜田教授はジアセチルスベルミンが“がん”患者の尿中に特異的に上昇することを見い出し、成果を論文にして発表しておられます。川喜田教授から本院検査部に共同研究のお話があり、現在、本院では外科、内科、泌尿器科などの臨床各科で川喜田教授らの研究の裏付けを取ろうと研究を行っております。これまでの結果は膵臓がんで良い結果が出ています。これがあらゆる“がん”の診断に共通に利用できるのであれば、まさに、夢の“がん診断法”になります。今、本院では“夢のがん診断法”の確立を目指して研究を行っております。



●濱崎教授

みんなで言葉をさがそう!

副病院長 麻酔科蘇生科教授 高橋 成 輔

誰でも、病気をして治療を受けるとき、発病前の自分に戻れることを期待します。しかし、一方では、元どおりには戻れないかもしれない、何か後遺症が残るかもしれない、などと不安にもなります。結果が期待どおりに良好であれば、医療を受けた側も提供した側もニコニコ顔で喜び合えますが、裏切られると不満が生じます。期待と結果との隔たりが大きいほど、不満は大きくなります。そのようなとき、その悪しき結果が、事前に説明されていた内容の範囲内か、範囲外かということが問題になります。これがインフォームド・コンセントの中心課題です。

しかし、事前に説明を聞いたり、書面を読んだりして、その医療のもつ危険性を正しく理解し、納得し、同意することは簡単ではありません。そこには言葉の壁が立ちまわります。最近では互いに理解できるわかりやすい言葉がずいぶん増えてきましたが、まだまだ不十分です。みなさんが説明を受けるときにわからない言葉が出てきたら、わかるまで聞き返すことが大切です。あまり聞き返すと機嫌を損ねてしまうのではないかと心配されるむきもありますが、そんなことは決してありません。「自分のいのちは自分でまもる」の信念を持って、「なるほど!」と得心がいくまで話し合しましょう。

必要な情報を共有し、対話を深め、信頼関係を築き、共に病気を倒そうという同盟関係を結ぶことが「納得の医療」への第一歩です。



●「納得の医療」のロゴマーク



病院地区 建物紹介

花屋、果物屋

花屋や果物屋の場所をご存知ですか?

「お見舞いに来て、病院内に花屋や果物屋が見当たらない」という声をよく耳にします。そこで今回は花屋、果物屋をはじめ、本屋、美容室、理容室等が並んでいる一角をご紹介します。この一角は意外と知られていませんが、他にも銀行や郵便局のATM、コピー機・FAXのある売店、食堂などがあり、大変便利な場所になっています。ぜひ一度実際に足を運んでみられてはいかがでしょうか。



■ たくさんの花が並ぶ花屋の売店
■ 色とりどりの果物



※奨学寄付金とは、教育・学術研究の奨励及び病院運営の助成等のため、個人・法人等から寄付金として受け入れるものです。詳しくは、左記掛へお問い合わせ願います。

季節と健康 夏バテ回復法について

現代の夏バテは、猛暑による体力消耗や食欲不振というよりも、エアコンの普及からの温度差ストレスによる自律神経の不調によるものが多いといわれます。ストレスは体のたんぱく質を多く消費させますので、良質のたんぱく質（牛乳、チーズ、卵、脂肪の少ない肉類など）を主とした献立を工夫しましょう。また、ビタミンB₁（豚肉、大豆など）やビタミンCも疲労回復やストレス軽減に役立ちます。もちろん1日3食規則正しいバランスのとれた食生活こそ夏バテ回復法の基本です。



（栄養管理室）

市民公開講座のお知らせ

テーマ：どうしたらいい？妊娠と育児

第1回：食生活

（「産褥期の栄養」をメインテーマとします。）

日時：平成15年9月7日（日） 14：00～16：00

場所：九州大学コラボステーションI 2階 視聴覚室

定員：230名 ※参加費無料

お問い合わせ先：092-642-5421（小児科）

たくさんの方のご来場を
お待ちしております！



医療トピックス （新聞に掲載されたニュース等をお知らせします。）

◇4割で受診抑制 全国保険医団体連合会（東京）の調査によると、サラリーマン本人の医療費の自己負担が3割に引き上げられた今年4月以降、4割を超える医療機関で患者が受診を控える動きがあったことが分かった。調査によると、患者による受診や治療の中断があったと答えた医療機関は歯科で42.6%、歯科以外では42.3%だった。治療を中断した病気は高血圧症、高脂血症、糖尿病などの慢性疾患が上位を占めた。（西日本新聞）

外来診療日一覧

ご用件がありましたら、下記の診療科等に直接お電話願います。
（市外局番は「092」です）

病	科名(電話番号)	初診日	再診日	病	科名(電話番号)	初診日	再診日	診療施設等	電話番号
1	総合診療部 (642-5300)	月～金	月～金	1	整形外科 (642-5504)	月・水・金	金	救急部受付	642-5873
1	内科(初診) (642-5300)	月～金	月～金	2	脳神経外科 (642-5533)	月・水・ 金	月・水・ 金	時間外受付	642-5163
2	内科(再来) (642-5302)			2	心臓外科 (642-5565)	月・ 木	月・ 木	総合外来受付	642-5138
2	心療内科 (642-5335)	月・木	火 ・ 水 ・ 金	2	小児外科 (642-5578)	月・水・金	月・水・金	入退院受付	642-5149
2	神経内科 (642-5349)	火 ・ 木 ・ 金	月・ 水	2	皮膚科 (642-5596)	月・水・金	火・木	地域医療連携室	642-5166
2	循環器内科 (642-5371)	月～木	月・木	2	泌尿器科 (642-5615)	月～金	月・水・金	収入掛	642-5169
2	呼吸器科 (642-5388)	月・水・金	月・火 水・金	1	精神科神経科 (642-5640)	火 ・ 木	月・ 水 ・ 金	リハビリ受付	642-5862
2	産科婦人科 (642-5409)	火・木	月～金	1	眼科 (642-5660)	月・水・金	月～ 金		
2	周産母子センター (642-5900)			2	耳鼻咽喉科 (642-5681)	月～ 木	月・ 水 ・ 金		
2	小児科 (642-5430)	月～金	月～金	1	放射線科 (642-5705)	月・水・金	月～金		
1	第一外科 (642-5453)	火・木・金	火・木・金	2	麻酔科蘇生科 (642-5719)	月・水・金	月・水・金		
1	第二外科 (642-5479)	月・水・金	月・水・金						

※○印の曜日は予約が必要です。

- 休診日
土曜日、日曜日、祝日、
年末年始（12/29～1/3）
- 受付時間
8：30～11：00
- 外来玄関開扉時間
7：00～18：00

- 注
- 予約がある場合はこの限りではありません。
 - 再来の方でも、1年以上受診されていない場合には、初診の曜日・時間となる場合がありますので、あらかじめ受診科「外来」にお確かめ願います。

（代表）092-641-1151



病院にお越しの際は保険証をお忘れなく！

※保険証の提示がない場合には、保険の取扱いができないことがありますので、予め御了承願います。

ご意見・ご感想を電子メール（ibskikak@jimu.kyushu-u.ac.jp）
または外来棟玄関の「ご意見箱」にどしどしお寄せください。お待ちしております！